



「腸チフスのメアリー」のお話を知っていますか？健康保菌者の存在が認められた事件をご紹介します。

健康保菌者の存在

定期的な検便検査の必要性、それは「健康保菌者」を早期発見するためです。

菌を持っていたり感染したりしているにもかかわらず、症状がでない健康保菌者は、本人が気づかないうちに菌を周りに広げてしまう可能性があるため、集団食中毒発生の原因になりかねません。

健康保菌者の発見

「健康保菌者」…症状が出ないにもかかわらず、なぜ保菌者がみつかったのか。

この概念が確立された事件が 20 世紀初めにニューヨーク周辺で発生しました。当時流行していた「腸チフス」です。「メアリー」という住み込み料理人が世界ではじめての「健康保菌者」として発見されました。

腸チフスのメアリー

メアリーは、ニューヨークで住み込み料理人として働いていました。メアリーが働いていた家の住人も腸チフスにかかり、原因究明をおこなったところ、メアリーが住み込みを始めた直後から腸チフスが発生していることが明らかとなりました。詳細を確かめるために調査を行うと、メアリーが保菌者であることが判明しました。

メアリーは病院に隔離されていましたが、「いわれのない不当な扱いを受けている」として訴訟を起し、食品を扱う職業へ就かないこと、居住地の連絡をすることを条件に解放されました。しかし、しばらくして消息不明となりましたが、再び感染源としてみつけられました。メアリーは、産婦人科病院にて調理人として働いており、そこでもたくさんの感染者を出し、その後メアリーは、亡くなるまで病院で隔離されていました。



検便の定期検査と正しい行動を！

お客様の健康のため、集団食中毒の発生を防ぐためにも、食品を取り扱う人は、検便の定期検査を行いましょ。

また、菌が検出した場合は保健所や会社の指示に従い、周りに菌を広げないように正しい行動をお願いいたします。



お気軽にお問い合わせ下さい。

お問合せ先

マイラボHPはこちら！

人と食のために
マイラボ食品検査センター

〒513-0836 三重県鈴鹿市国府町7756番地5

TEL 059-379-0077

FAX 059-367-7610

SUZUKA 株式会社スズカ未来

